

学校給食の今後の取り組みは

町 地産地消を踏まえて、努力する

問 農業が基幹産業の一つに上がる本町で、学校給食における地産地消の取り組みは。

学校教育課長

本町では地産地消を推進するために、米は100%町内産、また野菜は近隣農家、JA、道の駅などからも購入している。さらに本年度は地元の

本物の味を知り地域の食文化や農業、自然の恩恵に理解を深めるため、那須和牛を使ったメニューも予定している。

問 外国産の食材も使われているようにだが国内産の割合を上げる考えは。

学校教育課長

給食における国産食材の割合は、現

在55・7%、そのうち50・7%に県内産を利用している。

今後は地域と家庭と連携を図り食育を推進するとともに町内産農産物の利用割合を上げていきたい。

町内農産物の物流システム構築の推進は

町 検討委員会を立ち上げ推進する

問 施政方針に掲げている町内農産物の新たな物流システムの進捗状況は。

町長

町の主要産業である観光と農業を連携させ、新たな物流システムの構築を

目指している。例えば道の駅の直売所など相互交流を深めていきたい。

今後は、検討委員会を立ち上げ関係機関と調整を図りながら進めていきたい。

問 消費者が安心して購入できるよう、生産農家の顔が見える販売ルート構築する考えは。

消費者が安心して購入できるよう、生産農家の顔が見える販売ルート構築する考えは。

農林振興課長

現在町内農産物は、大きな市場への出荷が主になっている。消費者から生産者の顔が見えるのは非常に大切なことと考える。

これからは、学校給食への積極的利用や道の駅、直売所などから検討し、進めていきたい。



高久淳平



雄大な那須で農作業



美味しい地元の農産物